



小児科フェロウの声

Voice from The Pediatric Fellow

若手小児科医の1日

～医師10年目 野上正雄の声～

7:30 出勤 受持ち患者（特にPICU患者）の状態把握

8:30 病院全体カンファレンス、PICUカンファレンス、小児科カンファレンス

9:30 病棟チーム毎に方針の決定、病棟業務

11:00 PICU回診

12:00 日中のPICU担当医間で交代して昼食休憩

13:00 搬送や緊急入院等あれば随時対応

16:30 PICU当直医に申し送り

17:00 病棟チーム毎にカンファレンス

18:00 日中の業務の残りや自己研鑽（学習や論文執筆、学会準備等）

2023年度で医師10年目の野上正雄です。私は、2021年度の医師8年目に熊本赤十字病院小児科に入職しました。因みに前勤務地は、北海道札幌市の手稲溪仁会病院小児科でした。後期研修が修了したあとのレベルアップとして、小児救急・集中治療を含めた、小児急性期診療の総合的な向上を図るべく当院を希望しました。

当院の小児科は、全国でも数少ない小児救命救急センター認定を持ち、小児集中治療室（PICU）を持っています。病院全体として、熊本市の救急医療の中心を担っており、特に重症小児・小児三次救急は大多数が当院に集約されています。

私のような年代で、小児救急や小児集中治療をサブスペシャリティとして考える医師の多くのキャリアは、都市圏のこども病院のPICUで集中治療科フェローや、小児救急科フェローを行うことも多いと思います。

私は、当院の一次診療～三次診療まで（不登校～体外循環を必要とするような超重症小児まで）を、小児科全体として幅広く診療しているという点に魅力を感じています。

また、救急車で搬送されてくる、あるいは他院に迎え搬送として自分で患者を連れてくるところから、一般病棟への退室、退院支援、そして外来診療までずっと1人の患者を見続けることが、当院のように市中病院でPICUを研修する大きな強みだと思います。

主治医として、重症なお子さんとそのご家族の人生の一部と一緒に背負って診療するという責任が、自分を大きく成長させてくれていると感じています。

もちろん集中治療専門医も取得可能であり、小児集中治療に加え、小児循環器、小児消化器、小児腎臓、小児外科（小児超音波検査）についても専門医のもとで同時に学ぶことができます。

その他、学会発表も盛んにおこなっており、年に4～5回は地方会、全国学会で発表をしています。

「小児の総合医」であり続けながら、急性期診療を深めたいという若手小児科の先生にとっては、当院の環境は最高だと思います！！

ぜひ一緒に当院で働きませんか！！

